

小笠原国立公園の公園計画の変更について

1. 変更の理由

小笠原国立公園は、東京の南約 1,000km の太平洋上に散在する亜熱帯の島々からなる国立公園である。固有生物が多く生息するなど、独自の島嶼生態系が維持されており、また、海食崖やサンゴ礁などの優れた島嶼景観がみられる。

しかし、近年では、人間活動に伴い定着した様々な侵略的外来生物により、その貴重な島嶼生態系に甚大な悪影響が認められている。国立公園内の極めて貴重な自然景観及び固有生態系の保全を図るため、公園計画を変更し、自然再生施設を追加する。



南島



アニジマカタマイマイ（固有種）



小笠原諸島

2. 変更案の概要

グリーンアノールやノヤギ、アカギ等の侵略的外来生物の影響を軽減し、衰退している固有生態系を保全回復するための施設を、父島列島及び母島列島に整備する。具体的には、グリーンアノール及びノヤギそれぞれの侵入防止柵等の施設を設置することを検討している。

< 追加する施設計画 >

- 自然再生施設 東京都小笠原村（父島列島）
- 東京都小笠原村（母島列島）



グリーンアノール



ヤギ柵の例